



ドロローイング

12月27日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

12月27日のおはなし「ドロイング」

またあんたかい。しつこいね。何もなかったら、見せるものなんか。え？ だめだよ。冗談じゃない。何だってんで、見も知らない人に家の中を見せたりしなきゃならないんだい？ ただでも物騒な世の中なんだ。払う？ 何を？ 金なら払うって？ いくらだい。ええ？ 聞こえないよ。うん。うん。そうかい、そんなに用意してきたのかい。あのね。あんたは馬鹿だよ。最初からそういうことを言えばいいんだよ。そういう風に、その、なんだ、誠意を見せる気があるってことをね。ほら、こっちに寄越すんだよ。ちょっと待ちな。いま数えるから。

さあ入んな。ここがあたしの部屋だよ。言っとくけど金目のものは何もないからね。あんたがしつこく言うから見せてやっているけど、あたしが金を取って見せているんじゃないからね。何も見せるようなものはありゃしない。あたしはいやいやドアを開けたんだからね。上に階があるんじゃないか？ バカ言ってんじゃないよ。外から見たろう、この建物を。他に部屋はないかって？ そんなものはないよ。あるわけないだろう。何なんだい、一体。何をしたいんだい？

おやおや。どうしたんだい。バカにがっかりきたね。あたしのせいじゃないよ。あんたが勝手に何か探しにきて、何もないってこっちは言っているのに無理矢理入ってきたんだ。勝手に盛り上がり勝手に落ち込まれても迷惑なだけなんだよ。まったく頭に来るね。ほら、お茶でも飲みな。熱いのが入ってるから。ちゃんとふうふうして飲むんだよ。しょうがないね本当に。何なんだよ。話してみな。何があると思ったんだい？ わからないだって？ ばかばかしい。あんたは何があるか分かりもしないで人の家に押し入るのかい？

見れば分かると思った？ 探しているものがあるかどうか？ 何だい、そういうのが最近流行ってんのかい？ え？ 日記とか？ あたしや日記なんてつけないよ。あんたの日記？ どうしてあんたの日記があたしの家にあるのさ。ここに住んでた？ 誰なんだいあんた。

ああそうかい。そういうことかい。昔ここに住んでたんだ。あんたあれだろ、日本人だろ。聞いたことがあるよ。昔ここに日本人の女が住んでたってね。悪いけどいまはもう何もないよ。あたしがここに来た頃にや確かにまだ何やら残っていたんだけどね。何がって？ あれだよ。いろいろはいった箱だよ。何が入っていたかって？ ごちゃごちゃとそりゃいろんなものが。日記？

ああ、あったんだろうよ。でも悪いけどあたしや日本語は読めないからね。それが日記かどうかなんてわからない。ノートならあった。何冊か。それから何があったか？

ああそうだ。あたしの死んだ旦那がね……。まあいいや、そこで待つてな。ちょっと取ってくるから。

ほらこれだ。見てみな。この絵、悪くないだろ。あたしの旦那はね、こういうのが得意だったんだ。あんたの箱を前にしてね、何時間も描いていたよ。ほら。何がある？ ブラシが見えるね。あと定規も。ペンがいっぱい入っている。ごちゃごちゃと。鉛筆もある。ああ、このケースも絵を描く道具だね。旦那のと同じだからわかるよ。これは何だい？ 髪を留めるゴム、クリップ、ああ腕時計もある。この辺がノートだ。口紅もあるね。これはホチキス。さいころもあるね。なんだか出鱈目に入っているね。

ずいぶんいろんなものを忘れていったんだね。え？ 忘れたんじゃない？ 鍵をかけて置き去りにした？ 鍵をかけたって何に。ああそうか。そうだった。これは箱じゃない。机の引き出しだったね。そうだそうだ。机だよ。最初は机があったんだ。でもあれ、じきに脚がダメになってね。ばらばらにして捨てたんだ。そうしたらこんな引き出しがあることに気がついて。残念だね。もうないんだよ。この絵しかね。あんたの日記の中身までは描いてないよ。これっぎりさ。

おかえり。ああ、息子だよ。こちらは前にここに住んでた人。日本人さ。ほら、昔、とうさんがこの絵を描いていたろう。これの持ち主さ。え？ 何だって？ がらくた入れ？ バカだねお

前は。この人、言葉はちゃんとしゃべれるんだよ。この箱、じゃなくて引き出しの中身を探しにきたんだってさ。もう何もないんだけどね。え？ なんだって？ 何を持っているって？ これ？ 何だい、これは。え？ 手紙？ なんでそんなものを？ 切手？ 切手を取っておこうと思った？ ほんとかい。見せてみな。

ほら、あんた、うちのバカ息子がこんなものを取っていたよ。何かの役に立つかい？

おや、どうしたんだい。ああそうか。そうかい。これだったんだね。これを探していたんだね。そうかい。よかったじゃないか。ほら、おまえ、そんなところにポケットと突っ立ってないで奥から柔らかいちり紙を取ってくるんだよ。何枚？ ばかだねえ。たくさんに決まってるじゃないか。何故かって？ あたしがたくさん鼻をかむからだよ。

(「引き出し」 ordered by sachiko-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

ドローイング

<http://p.booklog.jp/book/41352>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41352>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41352>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.